

工程	材料	調合 (重量)	所要量	塗布面積	施工用具	塗回数	間隔時間 (23°C)	可使時間 (23°C)
1.素地調整	①電動工具・手動工具を用いて劣化した旧塗膜を除去し、発錆部は2種ケレン(SSPC_SP3、ISO St3)程度まで除錆して下さい。旧塗膜は全面表面あらし後、清掃ケレンを行って下さい。②チョーキング・ゴミ等付着物・汚れ・劣化塗膜がある場合は、密着力低下の原因となりますので、入念に除去し、油分は溶剤にて拭き取って下さい。③亜鉛メッキ鋼板(亜鉛鉄板・電気亜鉛メッキ鋼板)に塗装する場合、6ヶ月以上放置し表面光沢を消失されるか、或はリン酸処理等を施してから塗装して下さい。④塗装面周辺は、汚れや損傷を与えないように養生紙や養生テープ等で完全養生して下さい。⑤雨上がり後は、素地面が均一に乾いてから施工して下さい。							
2.下塗り	防鏽プライマーpro 清水	16kg 0~10%	0.12~0.18 (kg/m ² /回)	88~133 (m ² /セット/回)	刷毛 中毛ローラー エアレス	1回	4時間以上	-
3.上塗り	・上塗りにプレマテックス製品を施工する場合は、各標準施工仕様をご確認の上、施工して下さい。 ・上塗りに他社製品を施工する場合は、各メーカーの標準施工仕様に従って施工して下さい。※注:弊社までご相談下さい。							

●防鏽プライマーpro

(1液水性反応硬化形防鏽プライマー)

■荷姿

16kg/缶

■色

グレー
アカサビ

■適用基材

・鉄部・ステンレス・アルミニウム・亜鉛メッキ鋼板・旧塗膜・焼付鋼板



注
意
事
項

- ・さびが残った面へ塗装した場合、点さびが浮き出る可能性がありますので、さびの除去は入念に行って下さい。
- ・防鏽プライマーproの塗布量が少ない場合、防鏽機能が低下しますので、必ず所定の所要量を守って施工して下さい。
- ・乾燥が早いため、施工中も施工用具は液中に漬けて置くなど乾燥に注意して下さい。
- ・油分などの付着物は完全に除去して下さい。
- ・水洗い後は日数を空け十分に乾燥させて下さい。また塗装面が雨や霧等で濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないで下さい。
- ・塗装しない箇所は前もって塗料が付着しない様にしっかりと養生して下さい。塗装箇所以外に塗料が付着した場合は直ちに拭き取って下さい。
- ・エアレスでの施工は飛散により周囲を汚しトラブルの原因になる事が有ります。飛散防止対策は確実に行って下さい。
- ・常に結露が発生する地域・時期・場所での塗装は避けて下さい。
- ・施工環境が気温5°C以下の場合・湿度75%RH以上の場合・結露が発生する可能性がある場合・外部の施工で降雨が予想される場合・被塗物温度が50°C以上の場合には施工を避けて下さい。仕上がり不良、剥離などの不具合が発生し、本来の塗膜性能を発揮出来ない恐れがあります。
- ・夜露の早く降りる地域や季節では早めに塗装を終えて、十分に乾燥時間を確保して下さい。
- ・工程間の間隔時間は仕様を厳守し、降雨後は下地や主剤の乾燥時間を確認してから塗装して下さい。
- ・塗料は冬期は屋内で、その他の季節は直射日光や雨に当たらなく、また子供の手の届かない場所に保管し管理して下さい。
- ・塗料や塗料の付いた布類及び使用済み容器等を廃棄する場合は、関連法規を厳守し、産業廃棄物とし処分して下さい。(排水路・河川・下水・土壤等を汚染する場所へ廃棄しないで下さい。)
- ・材料は、出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク・保護メガネ・保護手袋を着用して下さい。
- ・塗装後は、手洗い及びうがいを充分に行って下さい。
- ・塗装中・塗装後は充分換気を行って下さい。
- ・目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ・誤って飲み込んだ場合には、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
- ・皮膚に付着した場合には、直ちに石鹼と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
- ・臭い・蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
- ・商品を取り扱う際には、各商品の容器に記載されている注意事項をよく守って下さい。又、詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご確認下さい。